

# 令和2年度 財政状況資料集

## 総括表（市町村）

都道府県名	佐賀県		市町村類型	I - 2		指定団体等の指定状況		区分			区分		
						財政健全化等	×	歳入総額	令和2年度(千円)	令和元年度(千円)	区分	令和2年度(千円・%)	令和元年度(千円・%)
市町村名	武雄市		地方交付税種地	1-2		財源超過	×	歳入総額	34,179,605	26,700,800	実質収支比率	3.1	6.5
						財源超過	×	歳出総額	33,317,909	25,582,209	経常収支比率	95.6	94.3
						首都	×	歳入歳出差引	861,696	1,118,591	(※1)	(99.5)	(98.3)
						近畿	×	翌年度に繰越すべき財源	446,077	262,091	標準財政規模	13,423,854	13,192,781
人口	令和2年国調(人)	47,914	産業構造(※5)	中部	×	実質収支	415,619	856,500	財政力指数	0.49	0.49		
	平成27年国調(人)	49,062		過疎	○	単年度収支	-439,354	43,303	公債費負担比率	16.9	16.8		
	増減率(%)	-2.3		山振	×	積立金	155,196	54,614	健全化判断比率				
住民基本台帳人口(※7)	令和03.01.01(人)	48,637	第1次	低開発	○	積立金取崩し額	0	30,000	実質赤字比率	-	-		
	うち日本人(人)	48,366		1,472	1,658	指数表選定	○	実質単年度収支	-284,158	67,917	連結実質赤字比率	-	-
	令和02.01.01(人)	48,854	第2次			基準財政収入額	5,630,683	5,365,351	実質公債費比率	9.0	8.6		
	うち日本人(人)	48,615		6,662	6,904	基準財政需要額	11,326,953	10,941,117	将来負担比率	9.2	25.5		
	増減率(%)	-0.4		28.3	29.2	標準税収入額等	7,092,030	6,818,965	資金不足比率(※4)				
	うち日本人(%)	-0.5	第3次	15,382	15,048	経常経費充当一般財源等	12,923,362	12,597,411					
面積(km <sup>2</sup> )	195.40	65.4		63.7	歳入一般財源等	16,595,236	16,074,623						
人口密度(人/km <sup>2</sup> )	245												
世帯数(世帯)	17,624												
職員の状況													
特別職等	区分	定数	1人あたり平均給料月額(百円)	区分	職員数(人)	給料月額(百円)	1人あたり平均給料月額(百円)	地方債現在高	28,388,723	28,684,549			
	市区町村長	1	9,500	一般職員	309	993,435	3,215	うち公的資金	21,596,314	21,924,604			
	副市区町村長	2	7,600	うち消防職員	-	-	-	債務負担行為額(支出予定額)	3,086,379	3,345,095			
	教育長	1	6,700	うち技能労務職員	4	12,684	3,171	収益事業収入	80,000	80,000			
	議会議長	1	4,900	教育公務員	3	11,556	3,852	土地開発基金現在高	865,945	865,748			
	議会副議長	1	4,400	臨時職員	5	10,875	2,175	積立金現在高	2,842,379	2,687,183			
	議会議員	18	4,100	合計	317	1,015,866	3,205	減債基金	881,413	872,724			
				ラスバイレス指数			98.5	その他特定目的基金	7,516,174	7,321,160			
	一般会計等の一覧												
	項番	会計名	事業会計の一覧		公営企業(法適)の一覧		公営企業(法非適)の一覧		関係する一部事務組合等一覧			地方公社・第三セクター等一覧	
(1)	一般会計	(2)	国民健康保険特別会計	(5)	工業用水道事業会計	(7)	給湯事業特別会計	(9)	杵藤地区広域市町村圏組合(一般会計)	(19)	武雄市土地開発公社		
		(3)	後期高齢者医療特別会計	(6)	下水道事業会計	(8)	新工業団地整備事業特別会計	(10)	杵藤地区広域市町村圏組合(介護保険)	(20)	武雄市体育協会		
		(4)	競輪事業特別会計					(11)	杵東地区衛生処理場組合				
								(12)	佐賀県後期高齢者医療広域連合(一般会計)				
								(13)	佐賀県後期高齢者医療広域連合(特別会計)				
								(14)	佐賀県市町総合事務組合				
								(15)	佐賀県市町総合事務組合(交通災害)				
								(16)	佐賀県西部広域環境組合				
								(17)	佐賀西部広域水道企業団				
								(18)	杵島工業用水道企業団				

(注釈) ※1：経常収支比率の( )内の数値は、令和元年度は「減収補償(特例分)」及び「臨時財政対策債」を、令和2年度は「減収補償(特例分)」 「猶予特例債」及び「臨時財政対策債」を除いて算出したものである。  
 ※2：各会計の一覧は主な会計(10会計まで)を記載している。  
 ※3：地方公共団体が損失補償等を行っている出資法人で、健全化法の算出対象となっている団体については、「地方公社・第三セクター等」の団体名に○印を付与している。  
 ※4：資金不足比率欄には、資金が不足している会計のみ記載している。  
 ※5：産業構造の比率は、分母を就業人口総数とし、分類不能の産業を除いて算出。  
 ※6：個人情報保護の観点から、対象となる職員数が1人又は2人の場合は、「給料月額(百円)」と「1人あたり給料月額(百円)」を「アスタリスク(\*)」としている。(その他、数値のない欄については、すべてハイフン(-)としている)。  
 ※7：人口については、調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。

(1) 普通会計の状況 (市町村)

歳入の状況 (単位 千円・%)					地方税の状況 (単位 千円・%)				
区分	決算額	構成比	経常一般財源等	構成比	区分	収入済額	構成比	超過課税分	
地方税	5,696,800	16.7	5,696,800	43.9	普通税	5,682,714	99.8	147,816	
地方譲与税	228,124	0.7	228,124	1.8	法定普通税	5,682,714	99.8	147,816	
利子割交付金	4,833	0.0	4,833	0.0	市町村民税	2,353,332	41.3	348	
配当割交付金	12,453	0.0	12,453	0.1	個人均等割	85,116	1.5	-	
株式等譲渡所得割交付金	14,178	0.0	14,178	0.1	所得割	1,857,398	32.6	-	
分離課税所得割交付金	-	-	-	-	法人均等割	147,283	2.6	-	
地方消費税交付金	1,045,474	3.1	1,045,474	8.0	法人税割	263,535	4.6	348	
ゴルフ場利用税交付金	34,037	0.1	34,037	0.3	固定資産税	2,750,853	48.3	147,468	
特別地方消費税交付金	-	-	-	-	うち純固定資産税	2,746,500	48.2	147,468	
自動車取得税交付金	-	-	-	-	軽自動車税	202,305	3.6	-	
軽油引取税交付金	-	-	-	-	市町村たばこ税	376,224	6.6	-	
自動車税環境性能割交付金	14,481	0.0	14,481	0.1	釧産税	-	-	-	
法人事業税交付金	40,289	0.1	40,289	0.3	特別土地保有税	-	-	-	
地方特例交付金	46,453	0.1	46,453	0.4	法定外普通税	-	-	-	
個人住民税減収補填特例交付金	36,167	0.1	36,167	0.3	目的税	14,086	0.2	-	
自動車税減収補填特例交付金	6,589	0.0	6,589	0.1	法定目的税	14,086	0.2	-	
軽自動車税減収補填特例交付金	3,697	0.0	3,697	0.0	入湯税	14,086	0.2	-	
地方交付税	6,635,383	19.4	5,800,873	44.7	事業所税	-	-	-	
普通交付税	5,800,873	17.0	5,800,873	44.7	都市計画税	-	-	-	
特別交付税	834,510	2.4	-	-	水利地益税等	-	-	-	
震災復興特別交付税	-	-	-	-	法定外目的税	-	-	-	
(一般財源計)	13,772,505	40.3	12,937,995	99.6	旧法による税	-	-	-	
交通安全対策特別交付金	9,370	0.0	9,370	0.1	合計	5,696,800	100.0	147,816	
分担金・負担金	356,063	1.0	-	-					
使用料	225,082	0.7	41,972	0.3					
手数料	184,112	0.5	-	-					
国庫支出金	9,997,963	29.3	-	-					
国有提供交付金(特別区財調交付金)	-	-	-	-					
都道府県支出金	3,281,170	9.6	-	-					
財産収入	120,234	0.4	126	0.0					
寄附金	1,373,952	4.0	-	-					
繰入金	751,704	2.2	-	-					
繰越金	1,118,591	3.3	-	-					
諸収入	542,108	1.6	-	-					
地方債	2,446,751	7.2	-	-					
うち減収補填債(特例分)	-	-	-	-					
うち猶予特例債	-	-	-	-					
うち臨時財政対策債	530,951	1.6	-	-					
歳入合計	34,179,605	100.0	12,989,463	100.0					

区分		令和2年度	令和元年度
徴収率	現・計	98.4	96.5
(%)	年	98.3	97.1
		98.2	95.4

公営事業等への繰出		国民健康保険事業会計の状況	
合計	3,105,284	実質収支	77,993
下水道	848,525	再差引収支	2,563
工業用水道	51,470	加入世帯数(世帯)	6,244
上水道	8,229	被保険者数(人)	10,058
宅地造成	700	被保険者	113
国民健康保険	567,110	1人当り	2
その他	1,629,250	保険税(料)収入額	414
		国庫支出金	
		保険給付費	

(注釈)  
普通建設事業費の補助事業費には受託事業費のうちの補助事業費を含み、単独事業費には同級他団体施行事業負担金及び受託事業費のうちの単独事業費を含む。

歳入の状況 (単位 千円・%)					
目的別歳入の状況 (単位 千円・%)					
区分	決算額 (A)	構成比	(A)のうち普通建設事業費	(A)のうち充当一般財源等	
議会費	223,240	0.7	-	223,201	
総務費	8,958,582	26.9	101,432	2,410,438	
民生費	9,042,783	27.1	17,173	3,914,320	
衛生費	1,744,359	5.2	8,804	1,328,250	
労働費	24,057	0.1	-	12,968	
農林水産業費	1,077,545	3.2	553,587	363,239	
商工費	977,367	2.9	11,572	542,648	
土木費	3,399,203	10.2	2,121,051	1,263,483	
消防費	822,300	2.5	56,219	729,886	
教育費	2,740,871	8.2	609,397	1,950,118	
災害復旧費	1,399,556	4.2	-	187,773	
公債費	2,908,046	8.7	-	2,807,216	
諸支出金	-	-	-	-	
前年度繰上充用金	-	-	-	-	
歳出合計	33,317,909	100.0	3,479,235	15,733,540	

性質別歳入の状況 (単位 千円・%)					
区分	決算額	構成比	充当一般財源等	経常経費充当一般財源等	経常収支比率
義務的経費計	12,255,731	36.8	7,367,347	7,300,517	54.0
人件費	3,385,829	10.2	2,894,971	2,828,590	20.9
うち職員給	1,939,652	5.8	1,666,673	-	-
扶助費	5,961,856	17.9	1,665,160	1,664,711	12.3
公債費	2,908,046	8.7	2,807,216	2,807,216	20.8
元利償還金	2,908,046	8.7	2,807,216	2,807,216	20.8
内訳					
うち元金	2,742,577	8.2	2,656,058	2,656,058	19.6
うち利子	165,469	0.5	151,158	151,158	1.1
一時借入金利子	-	-	-	-	-
その他の経費	16,183,387	48.6	7,747,517	5,622,845	41.6
物件費	3,998,902	12.0	2,415,282	1,763,953	13.0
維持補修費	83,832	0.3	69,098	60,595	0.4
補助費等	8,690,792	26.1	3,242,980	2,143,391	15.9
うち一部事務組合負担金	1,234,404	3.7	1,225,082	1,040,726	7.7
繰出金	2,197,060	6.6	1,740,105	-	-
積立金	1,016,485	3.1	273,736	1,654,906	12.2
投資・出資金・貸付金	196,316	0.6	6,316	-	-
前年度繰上充用金	-	-	-	-	-
投資的経費計	4,878,791	14.6	618,676	-	-
うち人件費	56,211	0.2	55,427	-	-
普通建設事業費	3,479,235	10.4	430,903	-	-
うち補助	2,133,105	6.4	115,884	-	-
うち単独	1,165,482	3.5	292,376	-	-
災害復旧事業費	1,399,556	4.2	187,773	-	-
失業対策事業費	-	-	-	-	-
歳出合計	33,317,909	100.0	15,733,540	-	-



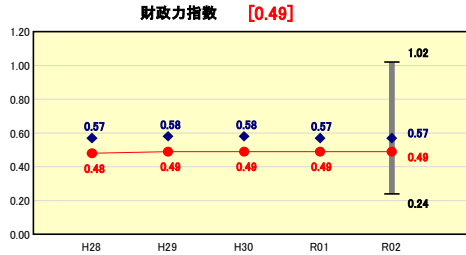
### (3) 市町村財政比較分析表(普通会計決算)

人口	48,637	人(R3.1.1現在)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	48,366	人(R3.1.1現在)	連結実質赤字比率	-	%
面積	195.40	km <sup>2</sup>	実質公債費比率	9.0	%
歳入総額	34,179,605	千円	将来負担比率	9.2	%
歳出総額	33,317,909	千円	市町村類型	H28 I-2 H29 I-2 H30 I-2	
実質収支	415,619	千円	(年度毎)	R01 I-2 R02 I-2	
標準財政規模	13,423,854	千円			
地方債現在高	28,388,723	千円			



※市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。  
 ※令和3年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率及び将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。  
 ※充当可能財源等が将来負担額を上回っている団体については、将来負担比率のグラフを表記しない。  
 ※「人件費・物件費等の状況」の決算額は、人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし、人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。  
 ※人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。  
 ※類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和2年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。

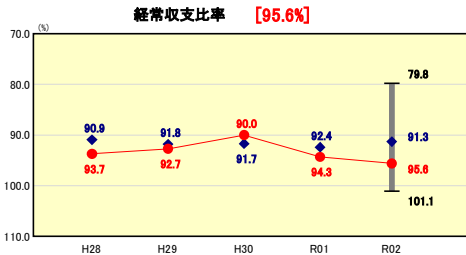
#### 財政力



類似団体内順位 51/84 全国平均 0.51 佐賀県平均 0.52

**財政力指数の分析欄**  
 財政力指数は0.49となり、H30、R1と横ばいの数値となった。全国平均(0.51)、佐賀県平均(0.52)をいずれも下回っており、当市の財政力は依然として弱い状況にある。  
 今後も引き続き、さらなる企業誘致や税の徴収率向上に努め、自主財源を確保し、財政基盤の強化を図る。

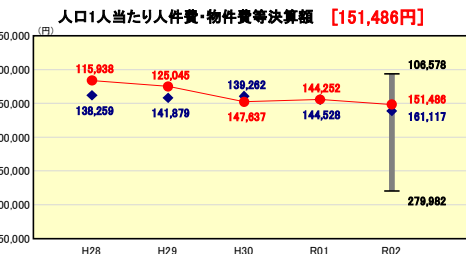
#### 財政構造の弾力性



類似団体内順位 66/84 全国平均 93.1 佐賀県平均 92.2

**経常収支比率の分析欄**  
 経常収支比率は前年度から1.3ポイント増の95.6%となり、全国平均(93.1%)、佐賀県平均(92.2%)をいずれも上回った。  
 これは人件費(会計年度任用職員報酬等)88,228千円、補助費(公共交通や観光対策等)78,393千円、公債費(こども図書館や学校建設事業の元金償還開始等)102,286千円等ほとんどの経費において経常経費充当額一般財源が増加し、全体として325,951千円と大幅に増加した。  
 今後も経常経費の削減を行うとともに、自主財源の確保に努める。

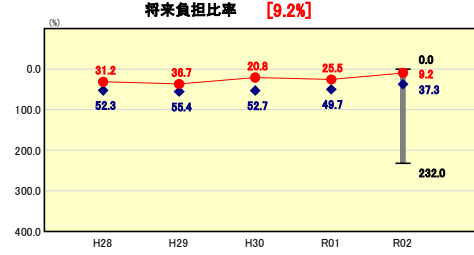
#### 人件費・物件費等の状況



類似団体内順位 40/84 全国平均 145,817 佐賀県平均 155,089

**人口1人当たり人件費・物件費等決算額の分析欄**  
 令和2年度は151,486円となり、全国平均(145,817)、佐賀県平均(155,089)と全国平均を上回ったが、佐賀県平均は下回った。前年度からは7,234円増加した。  
 人件費は会計年度任用職員の適用開始等により、344,000千円増加した。物件費は災害廃棄物等の処分等対応のための費用、ふるさと納税返礼品の減少が影響し、全体では46,718千円減少した。

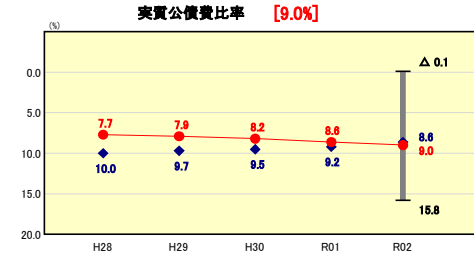
#### 将来負担の状況



類似団体内順位 27/84 全国平均 24.9 佐賀県平均 0.3

**将来負担比率の分析欄**  
 将来負担比率は9.2%となり、前年度(25.5%)から16.3ポイント減となった。類似団体(37.3%)、全国平均(24.9%)を下回ったものの、佐賀県平均(0.3%)を上回った。  
 将来負担額に対する充当可能財源等のうち、財政調整基金やふるさと納税によるまちづくり応援基金の積立による充当可能基金の増が将来負担比率を引き下げた要因となった。

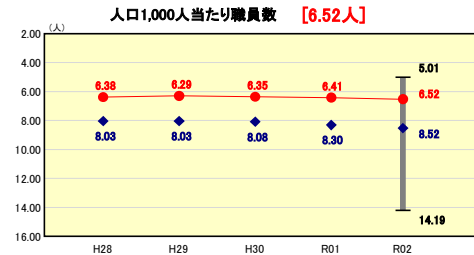
#### 公債費負担の状況



類似団体内順位 42/84 全国平均 5.7 佐賀県平均 7.2

**実質公債費比率の分析欄**  
 実質公債費比率は9.0%となり、類似団体平均(8.6%)、全国平均(5.7%)、佐賀県平均(7.2%)を上回った。  
 こども図書館や学校建設事業などの事業を実施したことによる公債費の増加や、合併支援措置の段階的廃止による普通交付税の減少により、実質公債費比率の上昇が見込まれる。  
 今後は事業の選択と適正な起債管理を行いながら、実質公債費比率の抑制に努める。

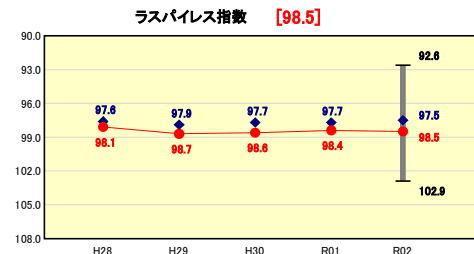
#### 定員管理の状況



類似団体内順位 5/84 全国平均 8.16 佐賀県平均 7.65

**人口1,000人当たり職員数の分析欄**  
 令和2年度は6.52人となり、全国平均(8.16人)、佐賀県平均(7.65人)、類似団体平均(8.52)のいずれも下回っている。引き続き、行政改革プランで掲げた目標に沿って、再任用職員等の活用等による人員削減や、現場ヒアリングを強化し業務量に見合う適正な人員配置により、定員適正化の推進を行う。

#### 給与水準 (国との比較)



類似団体内順位 54/84 全国市平均 98.8 全国町村平均 98.3

**ラスパイレス指数の分析欄**  
 前年数値98.4に対し98.5と0.1ポイントの増となった。主な要因としては経験年数段階内における職員の分布が変わったことなどがあげられる。  
 今後も給与水準の適正化に努める。

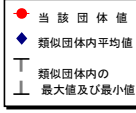
# (4)-1 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

令和2年度

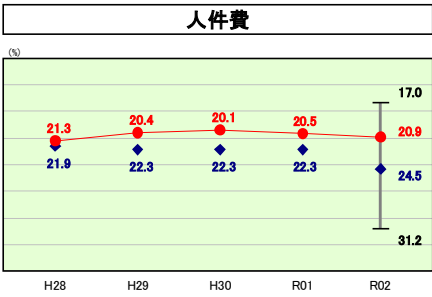
佐賀県武雄市

## 経常収支比率の分析

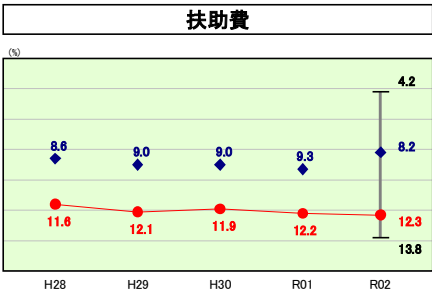
人口	48,637	人(R3.1.1現在)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	48,366	人(R3.1.1現在)	連結実質赤字比率	-	%
面積	195.40	km <sup>2</sup>	実質公債費比率	9.0	%
歳入総額	34,179,605	千円	将来負担比率	9.2	%
歳出総額	33,317,909	千円	市町村類型	H28 I-2 H29 I-2 H30 I-2	
実質収支	415,619	千円	(年度毎)	R01 I-2 R02 I-2	
標準財政規模	13,423,854	千円			
地方債現在高	28,388,723	千円			



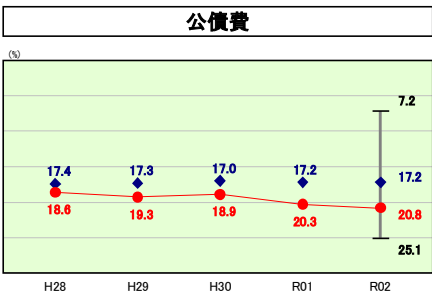
※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。  
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。  
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和2年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



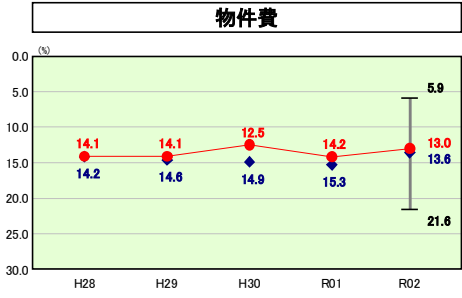
**人件費の分析欄**  
 人件費に係る経常収支比率は20.9%となり、全国平均(26.8%)、佐賀県平均(24.7%)、類似団体平均(24.5%)のいずれも下回ったが、前年度と比較すると0.4ポイント増加した。  
 職員数の削減(△1人)等の人件費の削減に努めたが、新型コロナウイルス感染症対応等による時間外勤務手当・休日勤務手当の増加が要因となった。



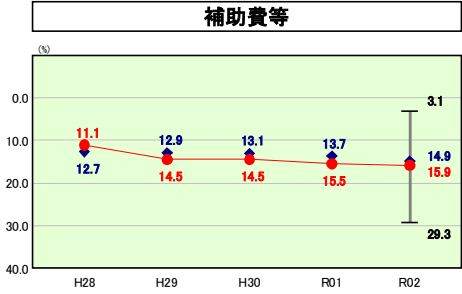
**扶助費の分析欄**  
 扶助費に係る経常収支比率は12.3%となり、全国平均(12.4%)を下回ったものの、佐賀県平均(11.4%)、類似団体平均(8.2%)のいずれも上回った。  
 前年度と比較すると0.1ポイント増加した。要因としては、教育・保育給付費やひとり親・子育て世帯への給付金の増となっている。



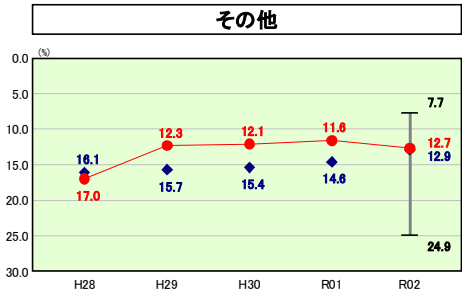
**公債費の分析欄**  
 公債費に係る経常収支比率は20.8%となり、全国平均(16.3%)、佐賀県平均(17.2%)、類似団体平均(17.2%)のいずれも上回った。前年度と比較すると0.5ポイント増加した。  
 今後も新球場、体育館建設などの大型事業を予定しており公債費の増加が見込まれるが、事業の選択と適正な起債管理を行い、公債費の抑制に努める。



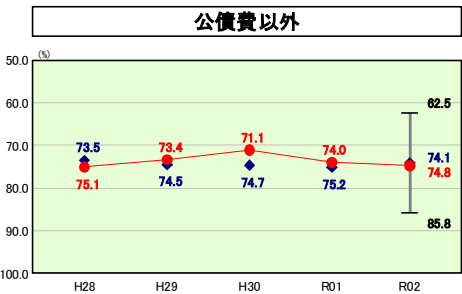
**物件費の分析欄**  
 物件費に係る経常収支比率は13.0%となり、佐賀県平均(12.2%)を上回ったものの、全国平均(14.3%)、類似団体平均(13.6%)を下回り、前年度と比較すると1.2ポイント減少した。  
 臨時職員が会計年度任用職員に移行したため、性質区分が人件費へ変更となった。また旅費などが減少したことによるもの。  
 今後も行政改革プランに基づく一層の事務事業の見直しにより、事業の選択と集中を図る。



**補助費等の分析欄**  
 補助費等に係る経常収支比率は15.9%となり、全国平均(10.7%)、佐賀県平均(12.7%)のいずれも上回っており、前年度から0.4ポイント増加した。  
 一部事務組合負担金や下水道事業会計補助金に係る補助費等が増加した。



**その他の分析欄**  
 その他に係る経常収支比率は12.7%となり、全国平均(12.6%)を上回ったが、佐賀県平均(14.0%)を下回り、前年度と比較すると1.1ポイント増加した。  
 その他については国民健康保険特別会計や後期高齢者医療特別会計への繰出金が主のものとなっており、今後も行政改革プランに沿って特別会計等の経営健全化に努める。



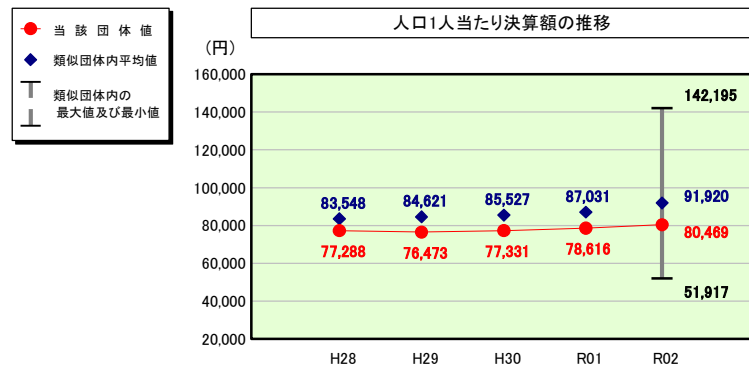
**公債費以外の分析欄**  
 公債費以外に係る経常収支比率は74.8%となり、類似団体(74.1%)を上回ったが、全国平均(76.8%)、佐賀県平均(75.0%)のいずれも下回った。前年度と比較すると0.8ポイント増加した。  
 今後も公債費、公債費以外いずれの経費も削減し、経常収支比率の抑制に努める。

# (4)-2 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

令和2年度

佐賀県武雄市

## 人件費及び人件費に準ずる費用の分析



## 人件費及び人件費に準ずる費用

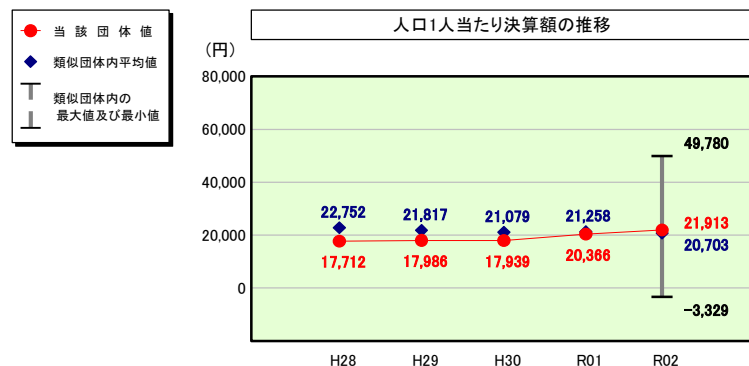
	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体(円)	類似団体平均(円)	対比(%)
人件費	3,385,829	69,614	83,474	▲ 16.6
一部事務組合負担金(補助費等)	492,042	10,117	8,278	22.2
公営企業(法適)等に対する繰出し(補助費等)	-	-	1,520	-
公営企業(法適)等に対する繰出し(投資及び出資金・貸付金)	-	-	13	-
公営企業(法非適)等に対する繰出し(繰出金)	136,650	2,810	2,948	▲ 4.7
事業費支弁に係る職員の人件費(投資的経費)	56,211	1,156	1,798	▲ 35.7
▲退職金	▲ 156,947	▲ 3,227	▲ 6,111	▲ 47.2
合計	3,913,785	80,469	91,920	▲ 12.5

## 参考

	当該団体	類似団体平均	対比(差引)
人口1,000人当たり職員数(人)	6.52	8.52	▲ 2.00
ラスパイレース指数	98.5	97.5	1.0

(注) 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。

## 公債費及び公債費に準ずる費用の分析

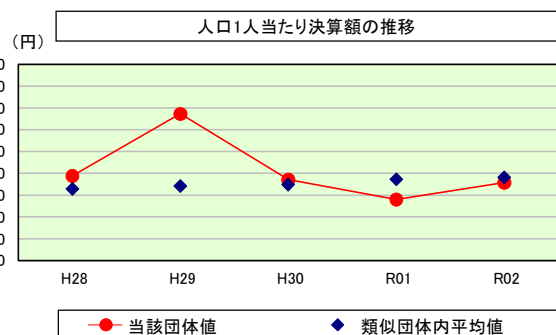


## 公債費及び公債費に準ずる費用(実質公債費比率の構成要素)

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体(円)	類似団体平均(円)	対比(%)
元利償還金の額 (繰上償還額等を除く)	2,908,046	59,791	52,518	13.8
積立不足額を考慮して算定した額	-	-	-	-
満期一括償還地方債の一年当たりの元金償還金に相当するもの (年度割相当額)	-	-	24	-
公営企業に要する経費の財源とする地方債の償還の財源に 充てたと認められる繰入金	555,348	11,418	18,573	▲ 38.5
一部事務組合等の起こした地方債に充てたと認められる 補助金又は負担金	173,881	3,575	2,920	22.4
公債費に準ずる債務負担行為に係るもの	284	6	483	▲ 98.8
一時借入金利息 (同一団体における会計間の現金運用に係る利息は除く)	-	-	1	-
▲特定財源の額	▲ 100,830	▲ 2,073	▲ 4,335	▲ 52.2
▲地方債に係る元利償還金及び準元利償還金に要する経費として 普通交付税の額の算定に用いる基準財政需要額に算入された額	▲ 2,470,955	▲ 50,804	▲ 49,481	2.7
合計	1,065,774	21,913	20,703	5.8

※令和3年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

## (参考) 普通建設事業費の分析



## 普通建設事業費

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額			
		当該団体(円)	増減率(%) (A)	類似団体平均(円)	増減率(%) (B)
H28	3,855,228	77,611	▲ 13.6	65,876	▲ 22.9
うち単独分	1,742,356	35,076	▲ 23.3	36,484	▲ 17.8
H29	6,643,217	134,710	73.6	68,468	3.9
うち単独分	4,443,925	90,113	156.9	34,140	6.4
H30	3,650,073	74,311	▲ 44.8	69,729	1.8
うち単独分	1,698,896	34,587	▲ 61.6	38,908	14.0
R01	2,741,129	56,109	▲ 24.5	74,581	7.0
うち単独分	924,202	18,918	▲ 45.3	41,563	6.8
R02	3,479,235	71,535	27.5	76,347	2.4
うち単独分	1,165,482	23,963	26.7	41,762	0.5
過去5年間平均	4,073,776	82,855	3.6	71,000	▲ 1.6
うち単独分	1,994,972	40,531	10.7	38,571	▲ 0.6

# (5)市町村性質別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

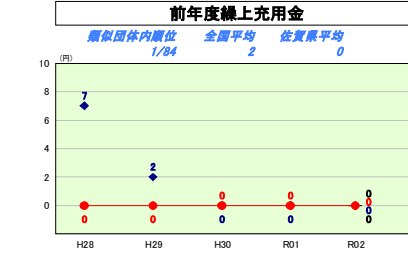
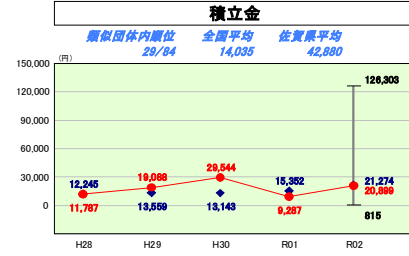
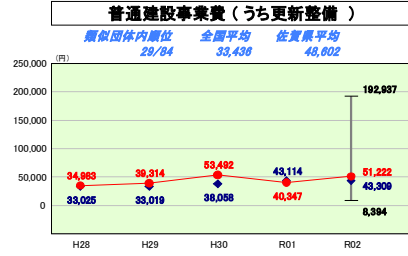
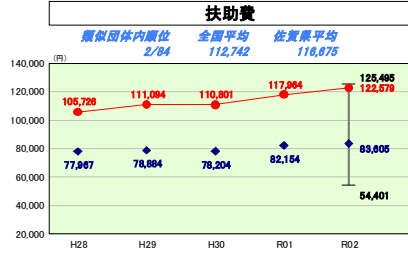
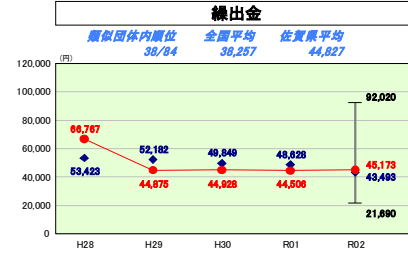
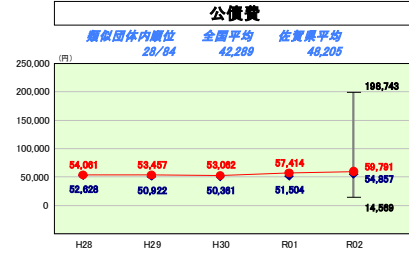
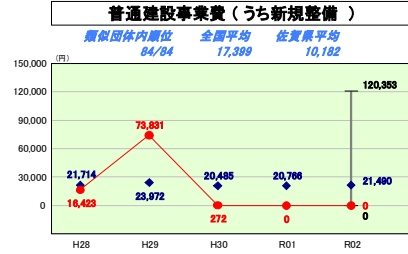
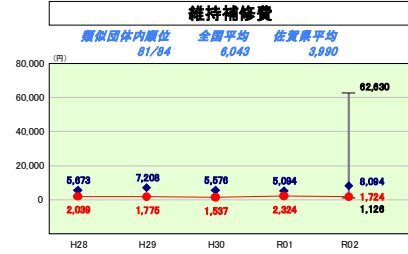
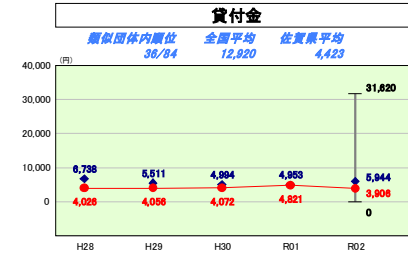
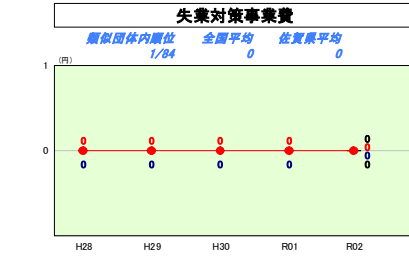
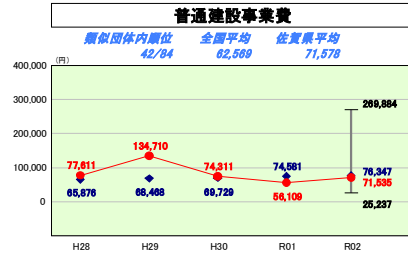
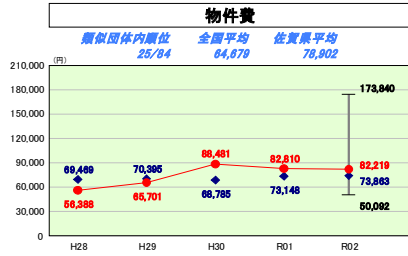
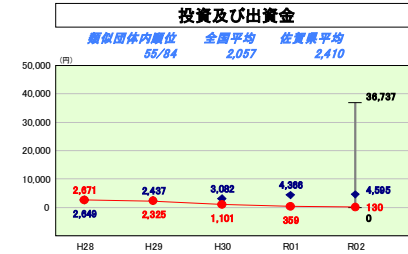
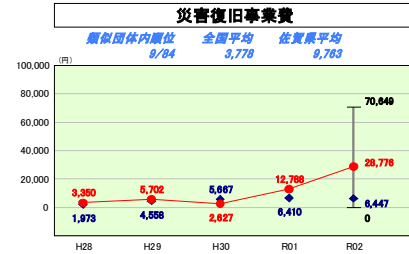
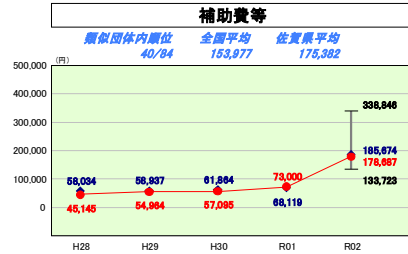
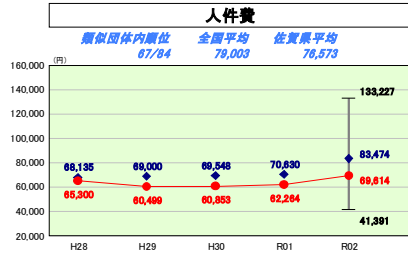
令和2年度

佐賀県武雄市

人口	48,697人(03.1.1現在)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	48,386人(03.1.1現在)	通算実質赤字比率	-	%
世帯	195.40世帯	実質公債費比率	9.0	%
歳入総額	34,179,805千円	将来負担比率	9.2	%
歳出総額	33,317,909千円	市町村類型	H28 I-2 H29 I-2 H30 I-2	
実質収支	415,619千円	(年度毎)	R01 I-2 R02 I-2	
標準財政規模	13,423,854千円			
地方債現在高	28,388,723千円			



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。  
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に記載されている人口に基づいている。  
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和2年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



## 性質別歳出の分析

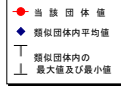
人件費は住民一人当たり69,614円であり、前年度比較で7,350円の増となったが、全国平均79,003円、佐賀県平均76,573円、類似団体平均83,474円と比較して低い状況である。今後も定員適正化に努める。  
 物件費は住民一人当たり82,219円であり、前年度比較で591円の減となったが、全国平均64,679円、佐賀県平均78,902円、類似団体平均73,883円と比較して高い状況となっている。防災情報発信システム構築事業や小中学校ICT機器購入費等が増え、前年と比較して減少しているもの、他団体等と比較して高い割合となっている。  
 扶助費は住民一人当たり122,579円であり、前年度比較で4,615円の増となり、全国平均112,742円、佐賀県平均116,675円、類似団体平均83,605円と比較して高い状況となっている。教育・保育費や子育て世帯等への給付金の増加が主な要因である。  
 補助費等は住民一人当たり178,687円であり、前年度比較で105,687円の増となり、類似団体平均185,674円と比較して低い状況であるが、全国平均153,977円、佐賀県平均175,382円と比較すると高い状況である。特別定額給付金の増加などが主な要因である。  
 普通建設事業費は住民一人当たり71,535円であり、前年度比較で15,426円の増となり、佐賀県平均71,578円、類似団体平均76,347円と比較すると低い状況であるが、全国平均62,589円と比較すると高い状況である。市営志久住宅建設工事などの増加が主な要因である。

# (6)市町村目的別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

令和2年度

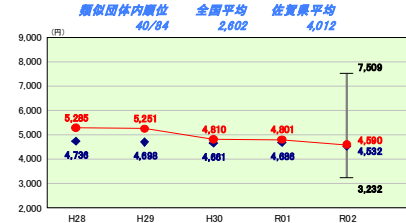
佐賀県武雄市

人口	48,637人(03.1.1現在)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	48,386人(03.1.1現在)	通算実質赤字比率	-	%
世帯数	195,40世帯	実質公債費比率	9.0	%
歳入総額	34,179,805千円	将来負担比率	9.2	%
歳出総額	33,317,009千円	市町村類型	H29 I-2	H30 I-2
実収支	415,619千円	(年度毎)	R01 I-2	R02 I-2
標準財政規模	13,423,854千円			
地方債現在高	28,388,723千円			

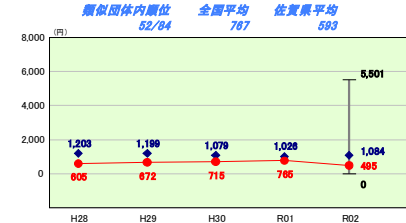


※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。  
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に記載されている人口に基づいている。  
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和2年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。

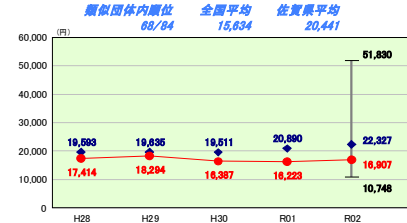
**議会費**



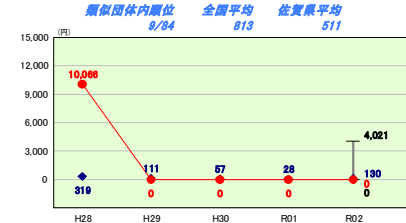
**労働費**



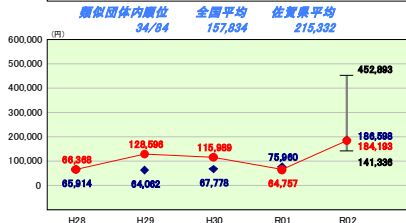
**消防費**



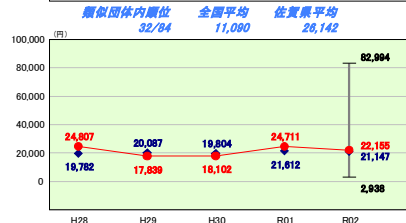
**諸支出名**



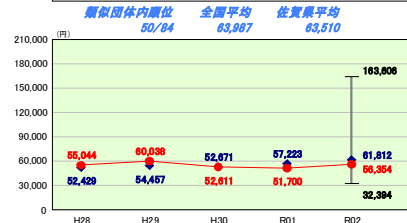
**総務費**



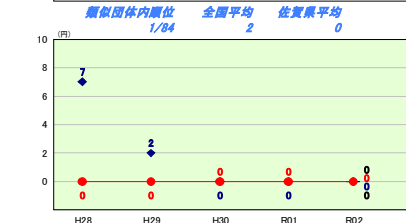
**農林水産業費**



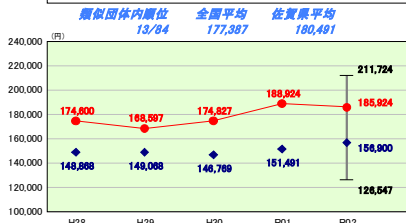
**教育費**



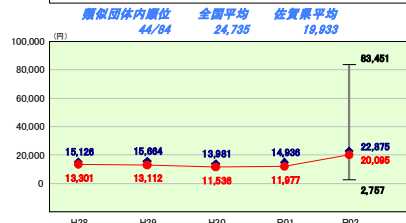
**前年度繰上充用金**



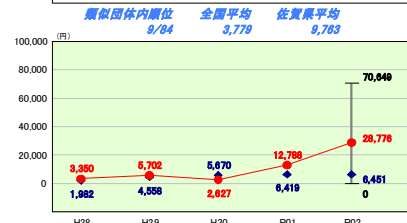
**民生費**



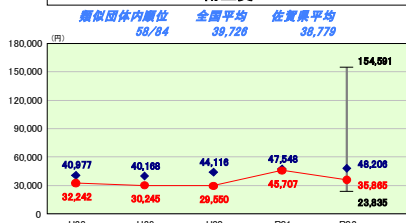
**商工費**



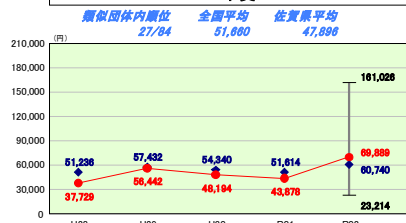
**災害復旧費**



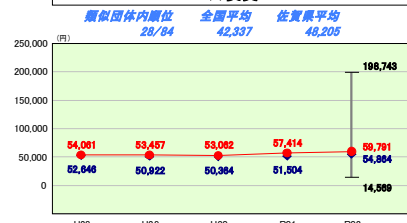
**衛生費**



**土木費**



**公債費**



**目的別歳出の分析圖**

総務費は住民一人当たり184,193円となっており、全国平均157,834円と比較して高い状況であり、前年度と比較して119,436円の増となっている。これは特別定額給付金や基金積立金の増加が主な要因である。  
 民生費は住民一人当たり185,924円となっており、全国平均、佐賀県平均、類似団体平均いずれと比較しても高い状況である。前年度と比較すると3,000円の減となっている。これは豪雨災害にかかる災害救助費の減少が主な要因である。  
 土木費は住民一人当たり69,889円となっており、全国平均、佐賀県平均、類似団体平均いずれと比較しても高い状況であり、前年度と比較して26,011円の増となっている。これは市営志久住宅建設費の増加が主な要因である。  
 教育費は住民一人当たり56,354円となっており、全国平均、佐賀県平均、類似団体平均いずれと比較しても低い状況である。前年度と比較すると4,654円の増となっている。これはタブレット型端末購入費や北方公民館復旧工費の増加が主な要因である。  
 公債費は住民一人当たり59,791円となっており、佐賀県平均48,205円、類似団体平均54,864円と比較して高い状況である。近年の大型事業の実施により公債費については当面高止まりすることが見込まれる。

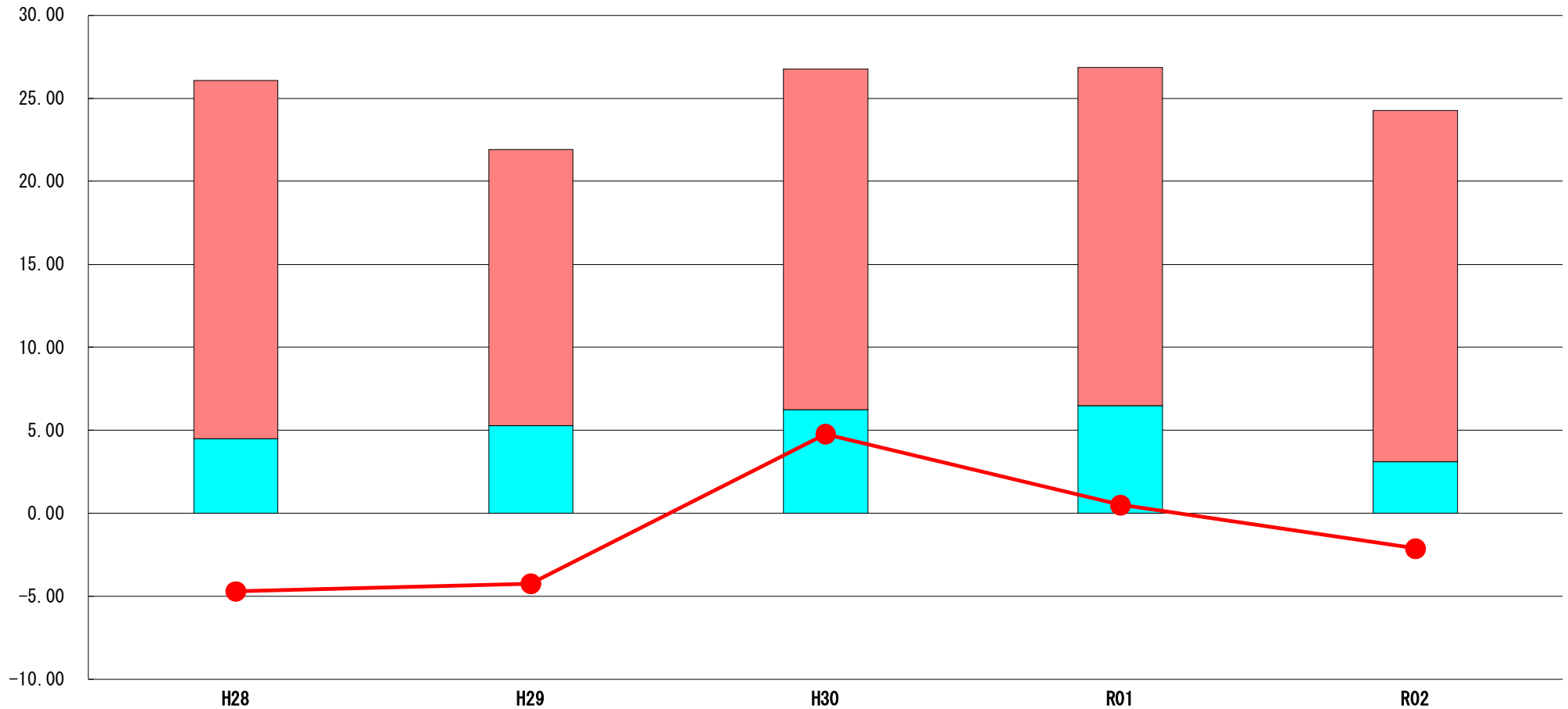


# (7) 実質収支比率等に係る経年分析（市町村）




令和2年度

佐賀県武雄市

標準財政規模比（%）



標準財政規模比（%）

区分	年度	H28	H29	H30	R01	R02
 財政調整基金残高		21.58	16.65	20.50	20.37	21.17
 実質収支額		4.49	5.27	6.26	6.49	3.10
 実質単年度収支		▲ 4.70	▲ 4.24	4.78	0.51	▲ 2.12

## 分析欄

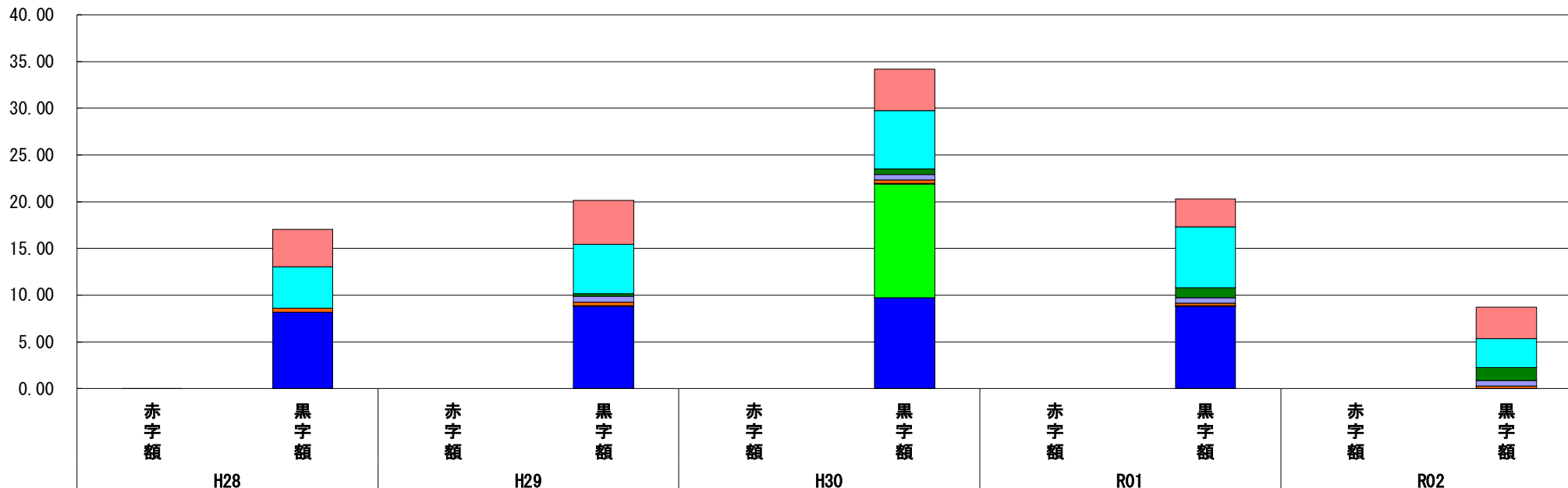
財政調整基金に155,196千円の積立を行ったことから、基金残高の標準財政規模比は21.17%となった。  
 実質単年度収支は赤字となっているが、その他特定目的基金の取崩しにより、実質収支額は黒字となった。しかし、実質収支額は前年度と比較し、約4.4億円の減、標準財政規模比は3.39%の減となっている。  
 今後もアセットマネジメント費用の確保や大規模災害発生等に備え、適正な基金残高の確保を図る。

## (8) 連結実質赤字比率に係る赤字・黒字の構成分析（市町村）

令和2年度

佐賀県武雄市

標準財政規模比（％）



標準財政規模比（％）

会計	年度	H28	H29	H30	R01	R02
競輪事業特別会計		3.99	4.69	4.39	2.98	3.38
一般会計		4.46	5.26	6.24	6.49	3.09
下水道事業会計		-	0.31	0.60	1.11	1.40
国民健康保険特別会計		▲ 0.02	0.60	0.62	0.58	0.58
工業用水道事業会計		0.41	0.42	0.36	0.27	0.25
給湯事業特別会計		0.01	0.01	0.02	0.02	0.02
後期高齢者医療特別会計		0.00	0.02	0.03	0.01	0.01
新工業団地整備事業特別会計		-	-	12.15	0.00	0.00
その他会計（赤字）		-	-	-	-	-
その他会計（黒字）		8.19	8.82	9.74	8.82	-

### 分析欄

全会計において黒字決算となったが、下水道事業会計や国民健康保険特別会計等については一般会計から繰出しを行っている。  
健全な財政運営をはかり一般会計からの繰出しの縮減を図る必要がある。  
また、競輪事業特別会計については、R元年同様に80百万円の一般会計への繰出しを実施している。今後も経営改善により、財政の健全化を図る。

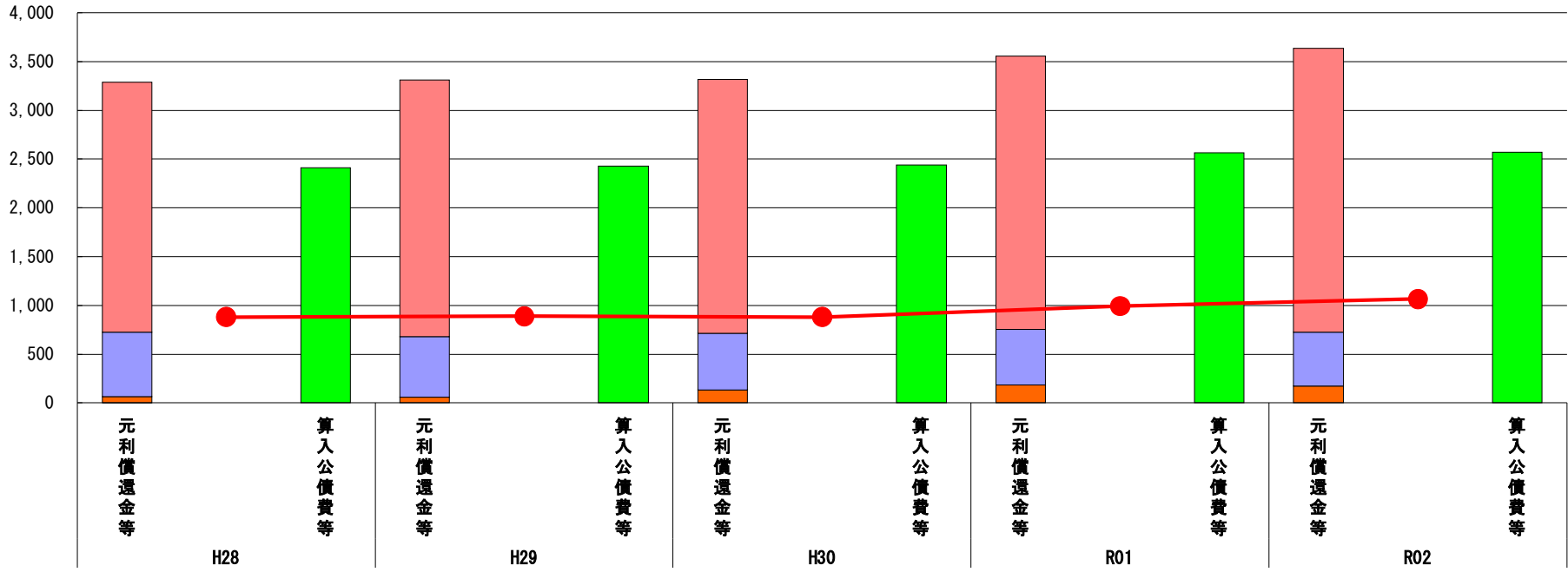
※令和3年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく連結実質赤字比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

# (9) 実質公債費比率（分子）の構造（市町村）

令和2年度

佐賀県武雄市

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度	H28	H29	H30	R01	R02
元利償還金等 (A)	元利償還金		2,568	2,636	2,606	2,805	2,908
	減債基金積立不足算定額※2		-	-	-	-	-
	満期一括償還地方債に係る年度割相当額		-	-	-	-	-
	公営企業債の元利償還金に対する繰入金		659	617	582	571	555
	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等		64	60	132	182	174
	債務負担行為に基づく支出額		1	0	0	0	0
	一時借入金の利子		-	-	-	-	-
算入公債費等 (B)	算入公債費等		2,412	2,426	2,439	2,564	2,571
(A) - (B)	実質公債費比率の分子		880	887	881	994	1,066

**分析欄**

3カ年平均の実質公債費比率は、昨年度の8.6%から9.0%に上昇している。これはこども図書館建設や学校建設事業等にかかる元利償還金が増加したためである。

単年度実質公債費比率も昨年度9.3%から9.7%に上昇している。

今後、アセットマネジメント計画等に基づく老朽化した施設の更新等が予定されており、償還金は増加する見込みであるため、実質公債費比率はさらに上昇していくことが予測される

※1 令和3年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。  
(参考) (百万円)

※2 減債基金積立状況等		年度	H27末	H28末	H29末	H30末	R01末
減債基金積立状況等	減債基金残高(注)						
	減債基金積立相当額						

**分析欄**

満期一括償還地方債は発行していない

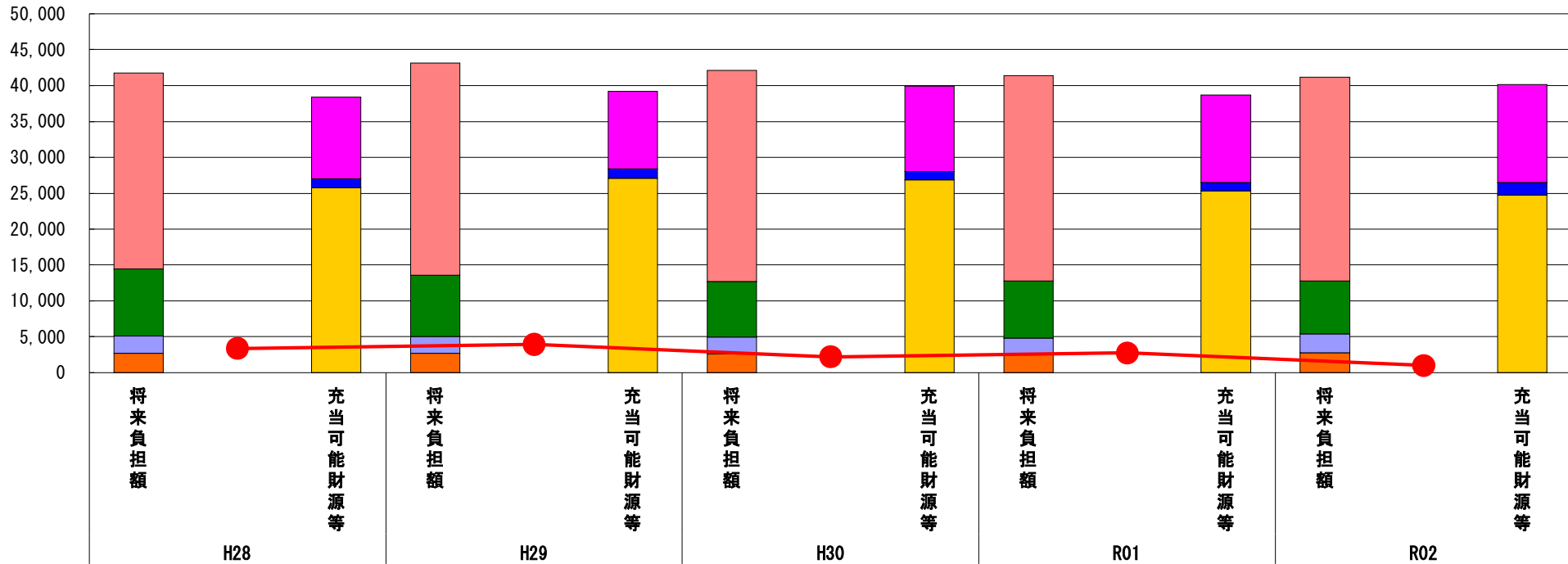
(注) 減債基金残高のうち、実質公債費比率の算定に用いる満期一括償還地方債の償還の財源として積み立てた額に係るもののみを記入。  
減債基金積立金の年度を超えた一般会計又は特別会計への貸付額は控除して記入。

# (10) 将来負担比率（分子）の構造（市町村）

令和2年度

佐賀県武雄市

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度	H28	H29	H30	R01	R02
将来負担額 (A)	一般会計に係る地方債の現在高		27,305	29,616	29,408	28,685	28,389
	債務負担行為に基づく支出予定額		-	-	-	-	-
	公営企業債等繰入見込額		9,339	8,484	7,744	7,931	7,432
	組合等負担等見込額		2,418	2,366	2,322	2,118	2,577
	退職手当負担見込額		2,684	2,704	2,654	2,701	2,774
	設立法人等の負債額等負担見込額		-	-	-	-	-
	うち、健全化法施行規則附則第三条に係る負担見込額		-	-	-	-	-
	連結実質赤字額		-	-	-	-	-
	組合等連結実質赤字額負担見込額		-	-	-	-	-
充当可能財源等 (B)	充当可能基金		11,391	10,870	11,865	12,159	13,654
	充当可能特定歳入		1,192	1,259	1,219	1,233	1,753
	基準財政需要額算入見込額		25,798	27,106	26,828	25,304	24,749
(A) - (B)	将来負担比率の分子		3,365	3,936	2,215	2,739	1,015

## 分析欄

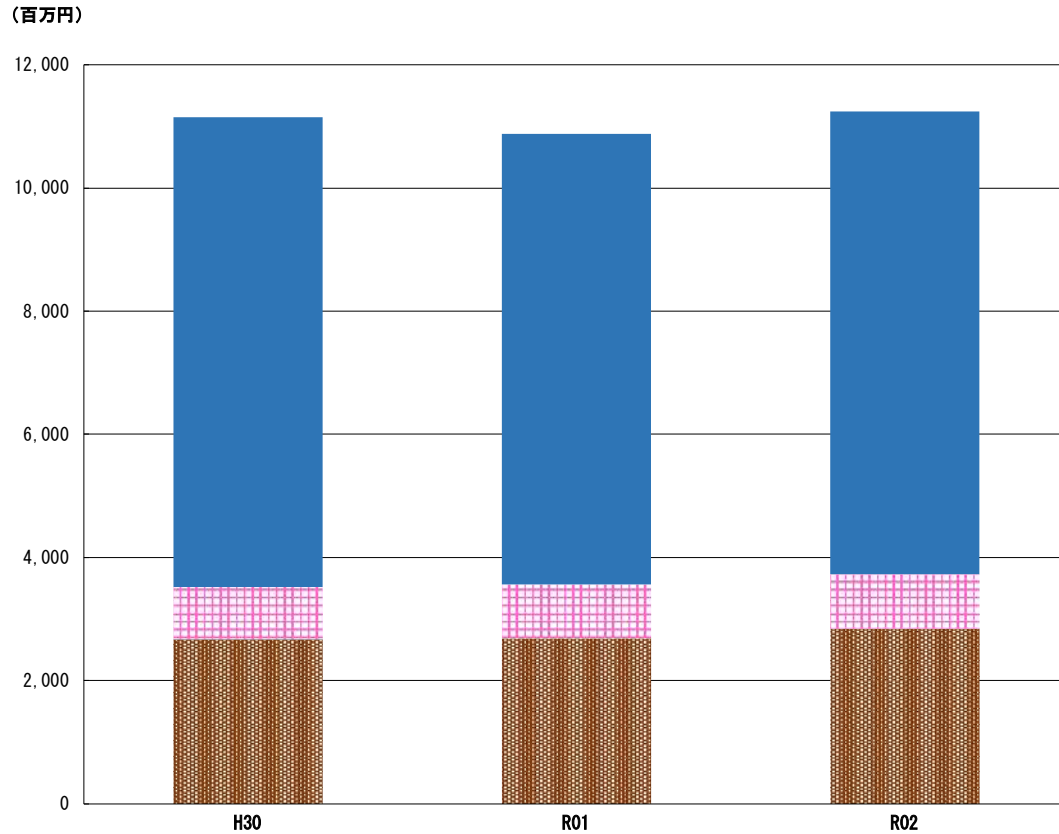
将来負担比率の分子については地方債残高や公営企業債等繰入見込額の減少、充当可能基金が増加したことにより、令和2年度は前年度比較で1,724百万円の減となった。

令和2年度における減の主な要因は充当可能財源等のうち財政調整基金やふるさと納税の収入増に伴うまちづくり応援基金の積立て等により充当可能基金が増加したため。

今後、地方債残高や公営企業債等繰入見込額等の負債の削減を図り、健全な財政運営に努める。

※令和3年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

# (11) 基金残高（東日本大震災分を含む）に係る経年分析（市町村）



区分	年度	H30	R01	R02
財政調整基金		2,663	2,687	2,842
減債基金		852	873	881
その他特定目的基金		7,635	7,321	7,516
公共施設整備基金		3,259	3,206	3,282
合併振興基金		1,816	1,722	1,466
まちづくり応援基金		314	199	650
志久排水機場維持管理基金		618	617	611
地域福祉基金		648	517	421
<b>基金残高合計</b>		<b>11,150</b>	<b>10,881</b>	<b>11,240</b>

## 令和2年度 佐賀県武雄市

### 基金全体

(増減理由)  
新型コロナウイルスに伴う経済対策として「合併振興基金」を338百万円取り崩したものの、ふるさと納税を財源に「まちづくり応援基金」に643百万円の積立てを行った。また、「財政調整基金」に155百万円、「公共施設整備基金」に76百万円の積立てを実施したことにより、基金残高合計は11,240百万円となり、前年度と比較し、359百万円増加した。

(今後の方針)  
基金の一括運用を開始したことから、安定・安全な資金運用を継続しつつ、運用収益の着実な積み立てを行っていく。  
今後もアセットマネジメント計画に基づく老朽化した施設等の計画的更新等が見込まれるため、基金取り崩しを抑制した予算編成に努める。

### 財政調整基金

(増減理由)  
競輪事業特別会計繰入金等を財源とした積立てを155百万円を実施したことにより、令和2年度の基金残高は2,842百万円となり、前年度と比較して155百万円増加した。

(今後の方針)  
今後も合併支援措置が段階的に廃止されることに伴って地方交付税が減少し、社会保障関係経費が増加することで、財源不足が見込まれる。また、大規模災害に備え、事業の選択と集中による経費削減を図り、基金の取崩しの抑制に努める。

### 減債基金

(増減理由)  
下水道関連補助金等を財源とした積立て39百万円を実施したことにより令和2年度の基金残高は881百万円となり、前年度と比較して8百万円の増加した。

(今後の方針)  
今後も下水道事業に係る償還が増加する見込みであるため、引き続き計画的な積立てに努める。

### その他特定目的基金

(基金の使途)  
公共施設整備基金 : 公共施設の整備に係る普通建設事業に充当する基金  
合併振興基金 : 合併による市民の連携の強化及び均衡あるまちづくりの振興を図る事業を推進するための基金  
まちづくり応援基金 : 寄付金を財源として、個性と活力のあるまちづくり事業を推進するための基金

(増減理由)  
公共施設整備基金  
・ 余剰金を財源とした積立てを76百万円を実施したことにより、基金残高は3,282百万円となり、前年度と比較して76百万円の増加した。  
合併振興基金  
・ 税の適正課税のための家屋全棟調査業務や新型コロナウイルスに伴う経済対策事業に充当したことにより、基金残高は1,466百万円となり、前年度と比較して256百万円減少した。  
地域福祉基金  
・ 国民健康保険特別会計への繰入金等に充当したことにより基金残高は421百万円となり、前年度と比較して96百万円減少した。

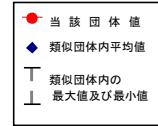
(今後の方針)  
公共施設整備基金  
・ 各施設の個別管理計画を策定することでアセットマネジメントに係る経費を算出し、計画的な積み立て及び取崩しを行っていく。  
合併振興基金  
・ 合併による市民の連携の強化及び均衡あるまちづくりの振興を図る事業に充当しつつ、基金運用収入を着実に積立てていく。  
志久排水機場維持管理基金

# (12)市町村公会計指標分析／財政指標組合せ分析表

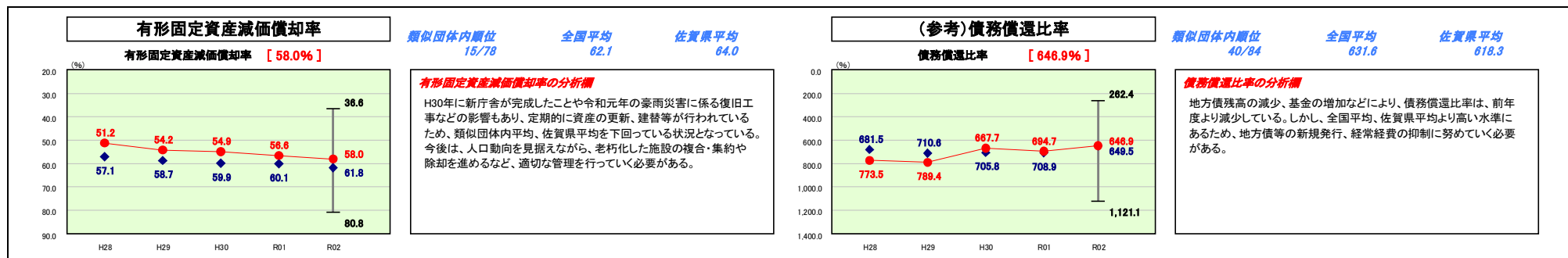
令和2年度

佐賀県武雄市

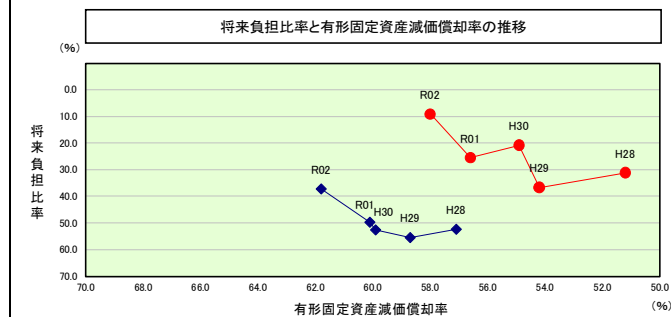
人口	48,637人	(R3.1.1現在)	実質赤字比率	-%
うち日本人	48,366人	(R3.1.1現在)	連結実質赤字比率	-%
面積	195.40km <sup>2</sup>		実質公債費比率	9.0%
歳入総額	34,179,605千円		将来負担比率	9.2%
歳出総額	33,317,909千円		市町村類型	H28 I-2 H29 I-2 H30 I-2
実質収支	415,619千円		(年度毎)	R01 I-2 R02 I-2
標準財政規模	13,423.854千円			
地方債現在高	28,388,723千円			



- ※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
- ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に記載されている人口に基づいている。
- ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和2年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。
- ※ 令和3年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体毎の決算に基づく健全化判断比率等を算出していない団体については、債務償還比率、実質公債費率、将来負担比率のグラフを表記しない。
- ※ 類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答があった団体に関するもの。



## 将来負担比率及び有形固定資産減価償却率の組合せによる分析



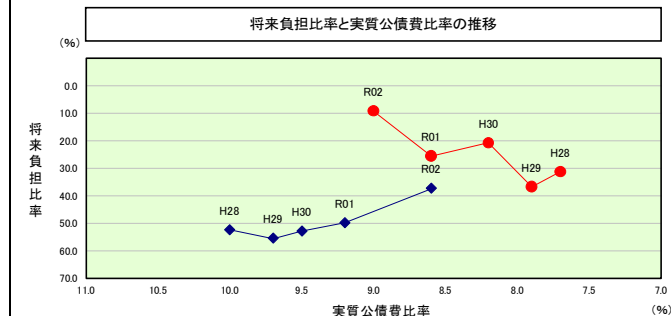
### 分析欄

将来負担比率は、充当可能財源のうち充当可能基金が増加したことにより、大幅な減少となった。一方で有形固定資産減価償却率は、類似団体内平均を下回っているため、資産の更新等が進んでいる状況であるといえる。今後、公共施設等総合管理計画を活用し、人口動向を見据えながら、老朽化した施設の適切な管理を進めていく必要がある。

### (参考)

		H28	H29	H30	R01	R02
当該団体値	将来負担比率	31.2	36.7	20.8	25.5	9.2
	有形固定資産減価償却率	51.2	54.2	54.9	56.6	58.0
類似団体内平均値	将来負担比率	52.3	55.4	52.7	49.7	37.3
	有形固定資産減価償却率	57.1	58.7	59.9	60.1	61.8

## 将来負担比率及び実質公債費比率の組合せによる分析



### 分析欄

実質公債費比率は、庁舎建替など大型施設の更新などを行っているため、元利償還金等が増加しており、年々増加傾向にある。今後も大型施設の建設が控えているため、実質公債費比率は、上昇していくと見込まれる。将来負担比率については、前年度より減少しているが、今後充当可能基金の減少が見込まれるため、地方債の新規発行を抑制し、公債費の適正化に取り組む必要がある。

### (参考)

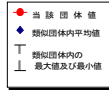
		H28	H29	H30	R01	R02
当該団体値	将来負担比率	31.2	36.7	20.8	25.5	9.2
	実質公債費比率	7.7	7.9	8.2	8.6	9.0
類似団体内平均値	将来負担比率	52.3	55.4	52.7	49.7	37.3
	実質公債費比率	10.0	9.7	9.5	9.2	8.6

# (13)-1市町村施設類型別ストック情報分析表①

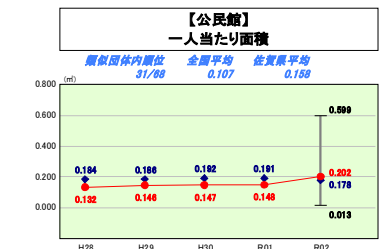
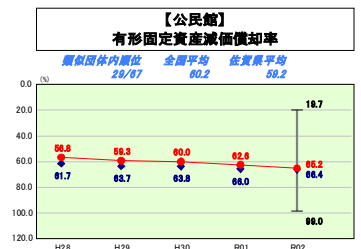
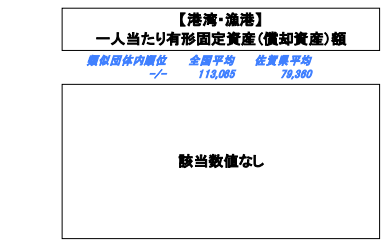
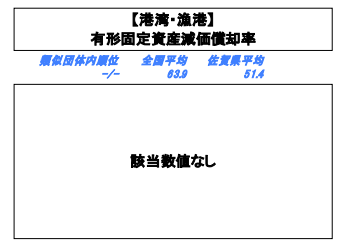
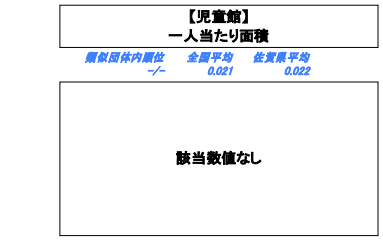
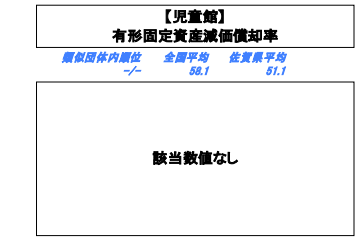
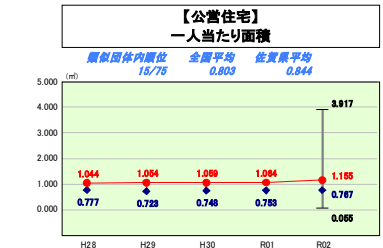
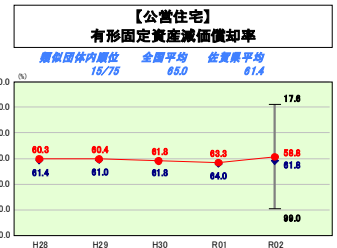
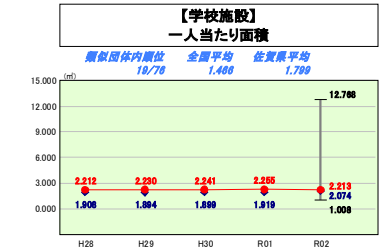
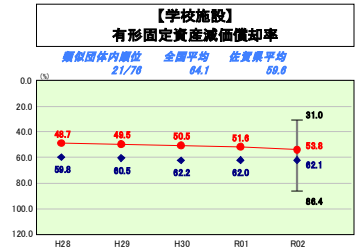
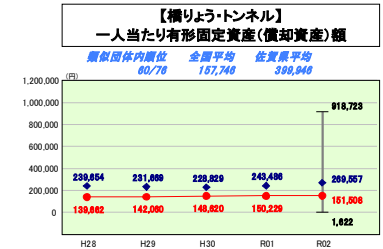
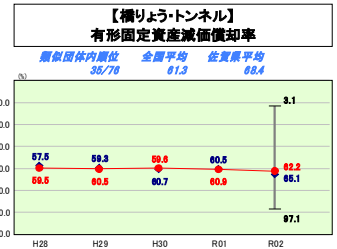
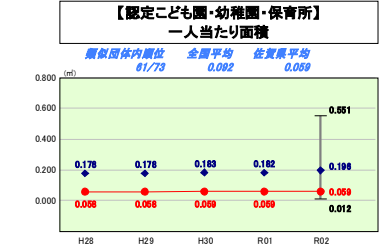
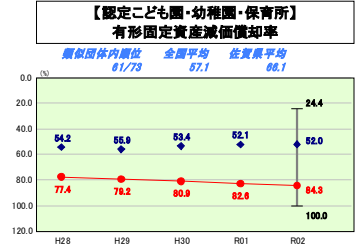
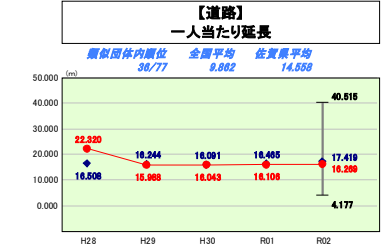
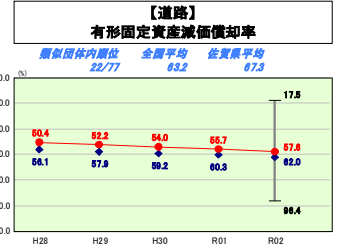
令和2年度

佐賀県武雄市

人口	48,837人(03.1.1現在)	実質赤字比率	-%
うち日本人	48,386人(03.1.1現在)	道庁赤字比率	-%
面積	196.40km <sup>2</sup>	実質公債費比率	9.0%
入居総額	34,179,805千円	将来負担比率	9.2%
歳入総額	33,317,909千円	市町村類型	H29 I-2 H30 I-2 H30 I-2
実収支	416,619千円	(年度毎)	R01 I-2 R02 I-2
標準財政規模	13,423,654千円		
地方債残高	28,388,723千円		



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。  
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。  
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和2年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。  
 ※ 類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。



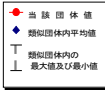
**施設情報の分析**  
 認定こども園・幼稚園・保育所については、減価償却率84.3%となっており、かなり老朽化が進んでいる。  
 他の資産については、類似団体より低いものの減価償却率50%を上回っている状況であるため、今後の維持管理には注意が必要である。  
 また、公営住宅、学校施設、公民館については、一人当たりの面積が類似団体平均、佐賀県平均より上回っているため、施設更新の際は、集約化・複合化・除却等を検討していく必要がある。

# (13)-2市町村施設類型別ストック情報分析表②

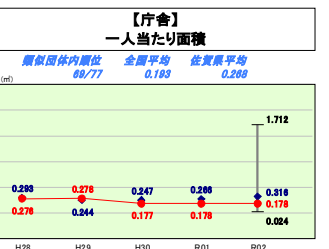
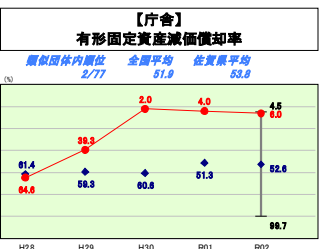
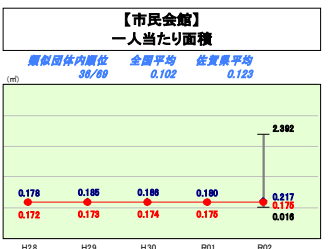
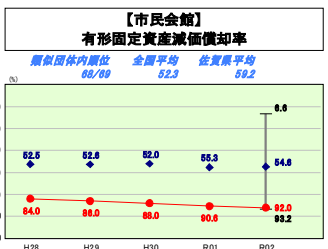
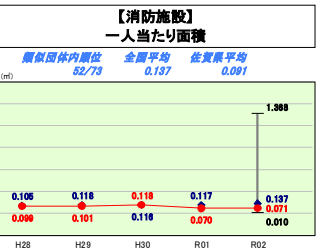
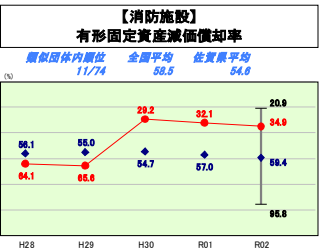
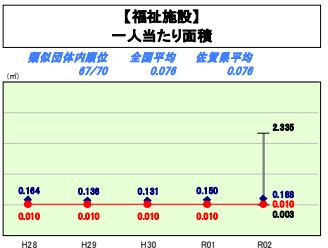
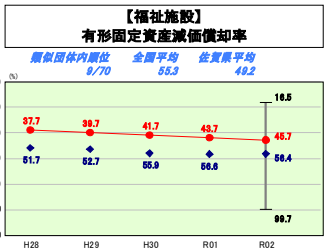
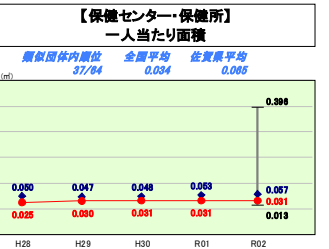
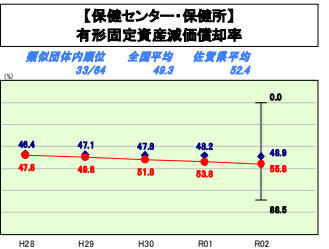
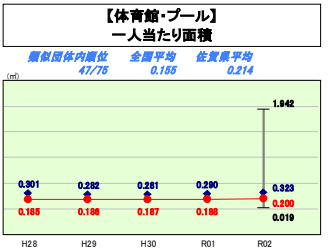
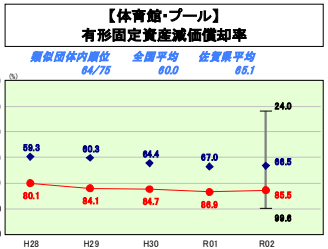
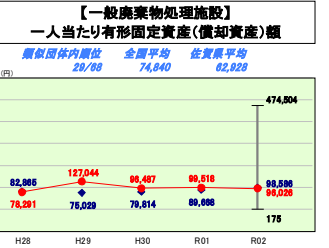
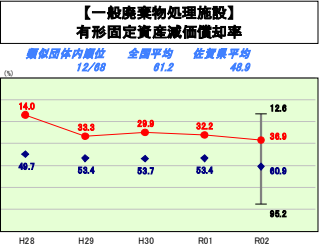
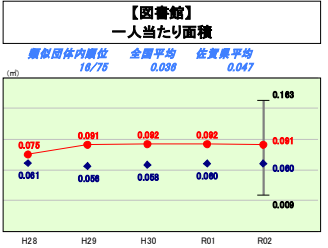
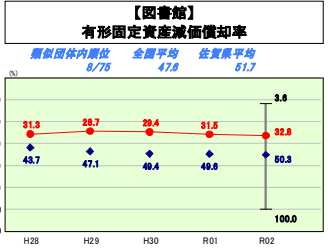
令和2年度

佐賀県武雄市

人口	48,637 人(昭.1.1現在)	実質赤字比率	- %
うち日本人	48,386 人(昭.1.1現在)	道庁実赤字比率	- %
面積	196.40 km <sup>2</sup>	実質公費比率	9.0 %
入籍総数	34,179,805 千円	将来負担比率	9.2 %
歳入総額	33,317,909 千円	市町村別型	H28 I-2 H29 I-2 H30 I-2
歳出総額	416,619 千円	(年度毎)	R01 I-2 R02 I-2
実収支	13,423,654 千円		
標準財政規模	28,388,723 千円		
地方債現在高			



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。  
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。  
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和2年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。  
 ※ 類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。



#### 施設評価の分析

庁舎、消防施設については、H30年度に実施した施設更新により、減価却率は低くなっている。  
 一方で市民会館は、減価却率92.0%とかなり老朽化が進んでいるため、施設更新計画等の策定に取り組んでいる。  
 また、体育館・プールについては、減価却率85.5%と老朽化が進んでいるが、新体育館建設等を予定しており、計画的な施設更新に取り組んでいる。  
 一人当たりの面積については、類似団体とほぼ同程度であることから、施設数自体は適正であると思われる。  
 今後は、公共施設総合管理計画に基づき、施設の更新等を進め、適切な維持管理を行っていく必要がある。